

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

Vol.2 「育苗後半～田植」平成23年3月25日

編集:郡山市

JA 郡山市 (.921-0724)

NOSAI 郡山田村 (.933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (.935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市営農推進課 924-3761)

東北地方太平洋沖地震の影響から移植をスムーズに行うため 田んぼを再点検しましょう!!

原子力災害に伴う技術対策

県では専門の知識を有するアドバイザーの助言を得て、国の協力も得ながら土壌分析を実施するなどして農用地の安全性を評価し、今後の対策などについて検討する予定です。

これらの状況を踏まえ、農家の皆さんには予定している農作業を延期し、しばらく様子を見ていただくようお願いします。

水稻の移植時期については、晩限まで遅らせることを前提に、播種時期も通常より遅らせるようにしてください。また、耕耘作業も遅らせてください。(播種:4月上～中旬 4月中～下旬、移植:5月上～中旬 5月中～下旬)

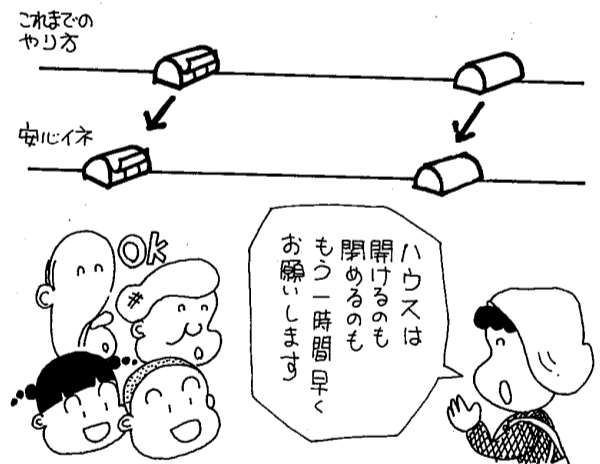
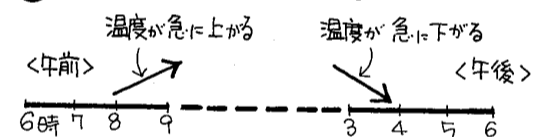
天気予報 (仙台管区气象台発表 3月25日付け、1か月予報、3か月予報 から抜粋要約)



時期	天 気	気 温
3/26 ～ 4/25	天気は数日の周期で変わって来ます。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	期間の前半は気温が低く、特に1週目はかなり低い時期があるでしょう。
5月	天気は数日の周期で変わって来ます。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。降水量は平年並です。	気温は平年並からやや高めの見込みです。
6月	東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は平年並です。	気温は平年並からやや高めの見込みです。

緑化・硬化期

●育苗ハウスの開け閉めは



1 苗が緑色を帯びるまで

1葉までは強い光を避けます(白化苗防止)。温度は昼25、夜15とし、高温による苗ヤケと、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

2 1.5葉期から

苗が緑色になったら、十分光に当てます。温度は昼25～20、夜15～10とし、徐々に自然環境に順応させます。

3 温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認して温度管理をします。

人間が暑くてたまらない温度では、苗はヤケてしまいます。

特に晴天時は、ハウス内の温度が朝は急に上がり、夜は急に下がるので、朝は早めにビニールを開け、夕方は早めに閉めましょう。

4 灌水

原則1日1回、朝にたっぷりと灌水します。万一乾いた場合には昼頃に追加灌水します。夕方の灌水は、地温を下げ根張りを悪くするので、行わないようにしましょう。

5 追肥

中苗は、葉色がさめないよう、2.5葉期ごろに1箱当たりチッソ成分1g程度を追肥します。

また、例年田植え時に風が強く、初期生育が悪くなる地域等では、田植え2日前頃に1箱当たりチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥すると活着がよくなります。

【チッソ成分1g/箱の目安】・稚苗用液肥源(15-19-15)約6g/箱

6 プール育苗での注意点

近年、省力技術であるプール育苗に取り組む方が増えてきています。以下の点に注意してください。

1葉期までは通常管理をします。水を入れる前は、高温になりやすいので注意してください。

湿害を防ぐため、水は早く入れすぎず、1～1.5葉期になったら水を入れ、昼夜ともサイドビニールを開放します。

ハウス内温度は低めに管理し、苗が伸びすぎないようにしましょう。

苗が水没すると生育不良になるので、水深は草丈の半分以下に保ちます。

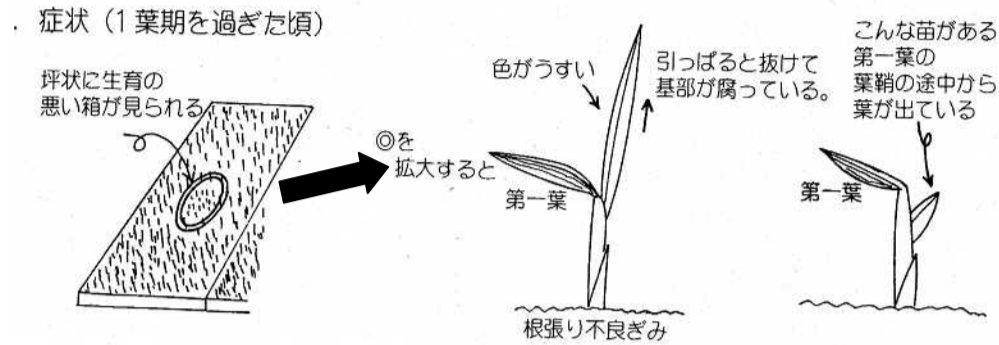
育苗中の病害

【もみ枯細菌病】

症状：1.5～2葉期に急に症状が現れます。坪状に枯れ、第2葉を引っ張ると簡単に抜けます。第1葉のつけ根が白くなることも多くあります。放置すると拡大します。

原因：病原菌は種子、空气中、水中、器具類などに存在します通常の温度では発病しませんが、催芽、出芽時の高温で繁殖し、感染します。

防除：もみ枯細菌病を予防するための種籾消毒をおこなっていない場合、播種後覆土前にカスミン粒剤を1箱当たり15～20g、種籾の上から均一に散粒する方法があります。もみ枯細菌病が発生してしまったら農薬では防除できません。



催芽や出芽は28とし、高温(30以上)多湿にならないよう注意しましょう。

また、灌水を通して別の箱へ感染するので、発生箱は直ちに育苗ハウス外へ運び出し、廃棄しましょう。

【カビによる苗立枯病】

耕種的防除：土のpHは4.5～5.5に調整しましょう。塩水選を行い感染のない種子を播種しましょう。

厚播きを避けましょう。温度管理を徹底しましょう。灌水過多、過湿に注意しましょう。

病原菌	症状	発生しやすい環境	薬剤防除例(500～1000倍液を箱当たり0.5%濃度で灌水)	
			防除時期	薬剤および使用回数
リゾプス属菌	表面やもみ近辺に白カビ	出芽時の高温	播種時	ダコニール1000 播種時2回
フザリウム属菌	もみと根近辺に白か淡紅色のカビ。芽の褐変。	緑化開始後の低温	播種時及び発芽後	タチガレン液剤 2回以内
ピシウム属菌	ドーナツ状に枯れる。カビは見えない。ムレ苗の原因。	緑化以降の低温、過湿	播種時及び発芽後	
トリコデルマ属菌	地際やもみ近辺に白～青緑色のカビ。葉の黄化。	高温	播種時1回又は播種時と播種7日後頃の2回	ベンレート水和剤 2回以内

注) 薬剤の使用回数は育苗期間中の回数。

本田準備 濁水や稲わらの河川や湖沼への流入防止のため、

「浅水代かき」をおこないましょう

ロータリー耕を続けると作土が浅くなりがちです。作土の耕深15cmを確保しましょう。

ケイカリンアップ、ベストソイルなど土づくり資材で、リン酸、ケイ酸、鉄、苦土を補給し、気象変動に強く、食味の良い米づくりに取り組みましょう。

畦畔の漏水を防止し、除草剤の効果を高めるとともに、低温時の深水管理に備えましょう。

田植え…植え付け本数は1株当たり3～4本程度

本数が多いと…茎が細くなり、倒伏に弱く、穂も小さくなります。

また、根も酸素不足で細根となります。

深植えは…下位分げつが発生しにくく、生育が遅れ気味になります。

苗が転ばない程度に浅く植えましょう。

箱施薬…いもち病対策、虫害対策

箱施薬剤によるいもち病と水田初期害虫の同時防除が省力的です。

市内でも、本格的にカーバメート系殺虫剤抵抗性ドロオイムシが発生しています。

昨年被害を受けた地域ではプリンス粒剤、スタークル粒剤、ダントツ粒剤等の非カーバメート系殺虫剤を使いましょう。

また、3年程度を目安に使用する薬剤を変えましょう。

主な防除薬剤 (いずれも使用回数1回、1箱当たり50g使用)

播種前または、播種時(覆土前)～移植当日 … 嵐プリンス箱粒剤6、デラウスプリンス粒剤06

緑化期～移植当日 … Dr.オリゼスタークル箱粒剤

移植3日前～移植当日 … Dr.オリゼダントツ箱粒剤、デジタルコラトップアクタラ箱粒剤

薬剤は、規定量を散布しましょう。

この資料は、平成23年3月23日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

本田の再点検を！

東北地方太平洋沖地震の影響から、スムーズに移植を行うため、早期に下記について確認しましょう。

田んぼの

用水の確認(水がくるかどうか)

漏水のチェック(水漏れしていないか)

畦畔の確認(ゆるんでいる可能性があるため農業機械の操作を注意しましょう) など…

田植え後は…

補植用の取り置き苗は、いもち病の感染源になるので、補植がすんだら、早めに廃棄して下さい。

地域全体でいもち病の感染源をなくしましょう。



「春の農作業事故防止運動展開中」(3/1～5/31)

農機用後部反射材などによる事故予防を。

農作業は無理せず「安全第一」で。

～～目指せ農作業事故ゼロ～～

